

佐賀新聞 2010(平成22)年6月30日(水) 県内文化欄 文化時評2010 【美術】

7 さが文化 2010年(平成22年)6月30日(水曜日) 佐賀

県内文化

美術

野中 耕介

先週開催された「第93回佐賀美術協会展」(県立美術館)で、

美協展の100回目を迎えた。美協展の100回目を迎えた。美協展の100回目を迎えた。

美協展を東京で開催しようという案があるようだが、現在のところ、初期美協展に出品された作品の多くが未発見、または失われている状況であり、かつ、現在の美協展に出品する作家のほとんどが、美協(展)という枠組みの中で、東京で発表することに意義を見出しているのかという問題もあるだろう。また、構想が膨らむにつれ、当然その予算と努力は膨大になるはずで

「美協展100年をどう祝うか」は、100年の間に「何をしていたか」を丹念に検証し、総括する内容でなければならぬ。草創期のストーリーと現在作家を紹介するだけでなく、さらに踏み込んで、その間を埋めてゆく視座、すなわち昭和、平成の佐賀県美術史を導き、実証してゆく方法を模索する必要があるのではないか。

美協展の100回目を迎えた。美協展の100回目を迎えた。美協展の100回目を迎えた。

美協展を東京で開催しようという案があるようだが、現在のところ、初期美協展に出品された作品の多くが未発見、または失われている状況であり、かつ、現在の美協展に出品する作家のほとんどが、美協(展)という枠組みの中で、東京で発表することに意義を見出しているのかという問題もあるだろう。また、構想が膨らむにつれ、当然その予算と努力は膨大になるはずで

美協展100年をどう祝うか

ある。

「美協展100年をどう祝うか」は、100年の間に「何をしていたか」を丹念に検証し、総括する内容でなければならぬ。草創期のストーリーと現在作家を紹介するだけでなく、さらに踏み込んで、その間を埋めてゆく視座、すなわち昭和、平成の佐賀県美術史を導き、実証してゆく方法を模索する必要があるのではないか。

美協展の100回目を迎えた。美協展の100回目を迎えた。美協展の100回目を迎えた。

美協展を東京で開催しようという案があるようだが、現在のところ、初期美協展に出品された作品の多くが未発見、または失われている状況であり、かつ、現在の美協展に出品する作家のほとんどが、美協(展)という枠組みの中で、東京で発表することに意義を見出しているのかという問題もあるだろう。また、構想が膨らむにつれ、当然その予算と努力は膨大になるはずで

「美協展100年をどう祝うか」は、100年の間に「何をしていたか」を丹念に検証し、総括する内容でなければならぬ。草創期のストーリーと現在作家を紹介するだけでなく、さらに踏み込んで、その間を埋めてゆく視座、すなわち昭和、平成の佐賀県美術史を導き、実証してゆく方法を模索する必要があるのではないか。

美協展の100回目を迎えた。美協展の100回目を迎えた。美協展の100回目を迎えた。

美協展を東京で開催しようという案があるようだが、現在のところ、初期美協展に出品された作品の多くが未発見、または失われている状況であり、かつ、現在の美協展に出品する作家のほとんどが、美協(展)という枠組みの中で、東京で発表することに意義を見出しているのかという問題もあるだろう。また、構想が膨らむにつれ、当然その予算と努力は膨大になるはずで

(県立美術館学芸員)

文化時評 2010